

## 死語

JJ1SXA/池

死語とは、使用者がいなくなり使用されなくなった言語…Wikipedia による。

いまの若い人達には、それ何？と言われそうな言葉「半ドン」、年配者には懐かしい言葉です、週休 2 日制になった現在は完全に死後となりました。

「半ドン」は、午前中に業務・授業が終了し午後が休みの早期終業のことを指す日本での俗称ということです。

江戸時代末期、長崎県出島よりオランダ語で日曜日または休日を意味する zondag という言葉が伝わり、訛ってドンタクになり、半分のドンタクなので「半ドン」と呼ばれるようになったという説と、明治時代より太平洋戦争中にかけて、正午に午砲(空砲)を撃つ地域があり、半日経った時間に「ドン」と撃つことから「半ドン」と呼ばれるようになったとの説があります。

後、「花金」、これも年配者には懐かしい言葉です、「花(華)の金曜日」を略した俗称ですが、バブル景気の頃、金曜日は通常一週間で夜まで働く最後の日に当たり、翌日を気にせずに会社帰りに仕事仲間と酒を飲める日であったため、サラリーマンが羽を伸ばせる日であった。

しかし、景気が衰退するとともにあまり使用されなくなり、半ドンと同じく死語になりつつあるというか、もうほとんど死語ですね。

ひと昔もふた昔も前になると、若者が使っていた言葉も変わってきたようで、次に上げる言葉も最近では余り使わないようです。

そんなバナナ-:「そんな馬鹿な」をもじった表現

なんたるちーや:なんということだ

いい子ぶりっ子:猫をかぶってくねくねした女のさま

アゲアゲ:テンションがあがっている状態

醤油顔・ソース顔:顔のつくりを和風・西洋風にたとえた言葉

最近ネット、特に 2 チャンネルで使われる言葉など、年寄りには、えっ、それ何だと言う言葉が一杯。

「微レ存」なんか、全く意味不明です、「可能性が非常に低いことを表す」、「限りなく低いけれど可能性はゼロではない」ことをにおわす時に使用すること。

微粒子レベルで存在するということだそうです、そんなこじつけは、若者には当たり前でも、老人には説明されなければ分からない、歳は取りたくない！

他にも、「つらたん」「ベッケンバウアー」「ズ友」「カミッテル」「デイスる」など全く意味不明、2ch 用語辞典なる HP もあるのでそちらを見るしか無い。